

## 自動車事故の直前状態を記録したイベント・データ・レコーダ(EDR)の データ解析に係る「CDRアナリスト資格」を取得

2017年11月6日

MS&ADインシュアランスグループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社(社長:金杉 恭三)は、お客さまサービスの充実を図るために、自動車のブラックボックスと言われるEDR(イベント・データ・レコーダ)のデータを活用した自動車事故損害調査に取り組んでいます。

当社がEDRデータを活用した事故の原因調査を委託した自動車事故の調査会社であるあいおいニッセイ同和損害調査(株)(社長:黒田 昌浩)では、ボッシュ株式会社のEDRデータ読み取り解析機器(CDR)を導入していますが、読み取ったEDRデータの解析を行うことができるボッシュ株式会社の認定する「CDRアナリスト資格」を、この度3名の技術アジャスターが取得しました。

「CDRアナリスト資格」の取得は、損害保険業界で初です。

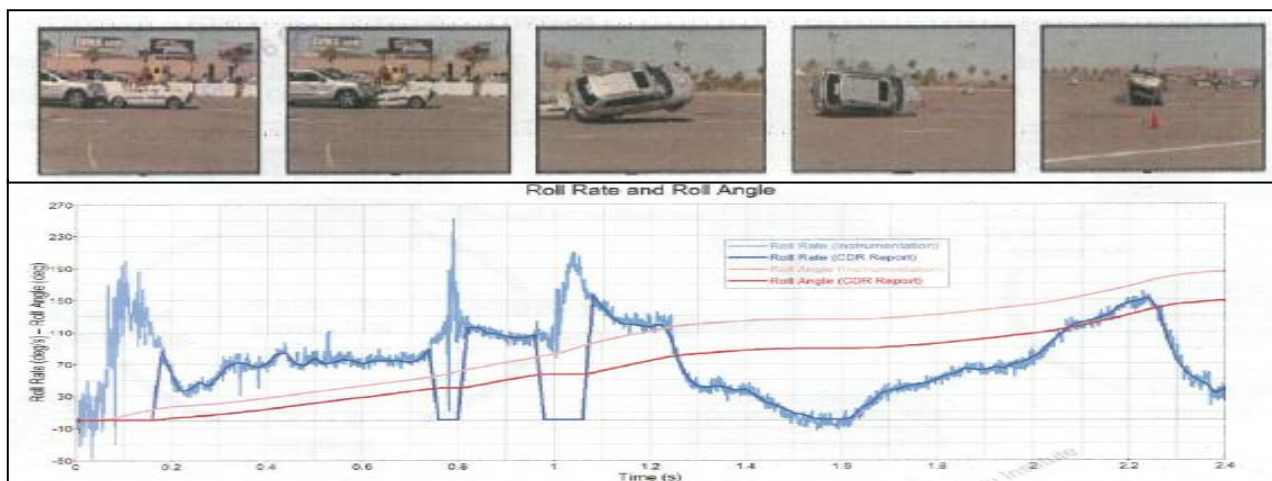
CDRで抽出が可能なEDRデータは、事故直前の走行速度やハンドル・ペダル類の操作状況など約60種類のデータですが、これらのデータを正確に解析するためには高度なスキルが必要です。

CDRアナリスト資格は「CSI<sup>※1</sup>認定トレーナー」による専門のトレーニングを受け、試験に合格した者にのみ与えられる資格です。今回、技術アジャスターがCDRアナリスト資格を取得したことにより、従来は外部機関へ調査を依頼していたデータの解析を、資格を持つ専門社員が直接行うことが可能となります。

これにより、保険契約者が交通事故に巻き込まれた際の賠償責任の有無や過失割合等の適切な判断の前提となる車両の状態を、より迅速かつ正確に把握することが可能となります。

※1:CSIとは、Collision Safety Institute(米国衝突安全研究所)の略。アメリカで長年の実績がある、クラッシュデータツールの訓練および研究グループであり、ボッシュCDRツールのデータのアナリスト認証コースで中心となる組織。

### 【CDRデータより車両挙動を推察した事例】





【CDRアナリスト資格取得】



【ボッシュ株式会社 代表取締役社長クラス・メーダー  
とあいおいニッセイ同和損害調査(株) 代表取締役社長  
黒田 昌浩】